

# 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 シンポジウム ～Global30の成果と今後の発展に向けた課題のフォローアップ～ アンケート集計結果

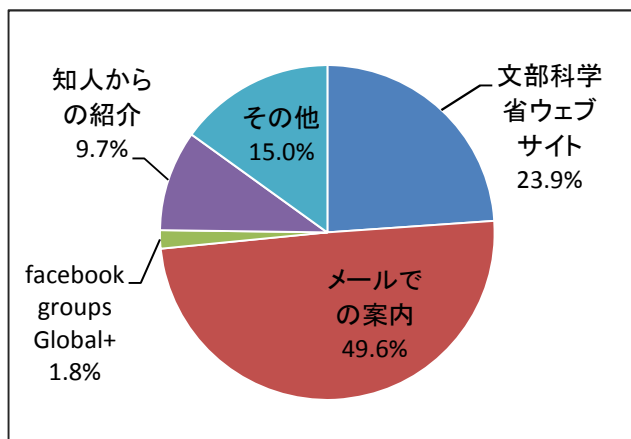
開催日：平成25年2月26日（火）

開催場所：TKP赤坂ツインタワーカンファレンスセンター 7階

参加者：260名（うちアンケート回答者114名（回答率43.8%））

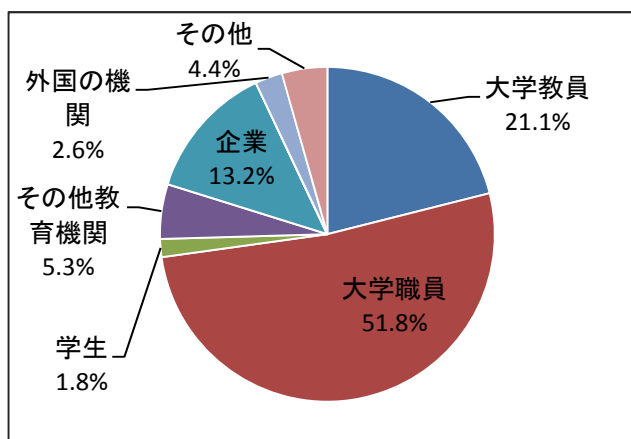
1-Q1.本日のシンポジウムの開催をどこで知りましたか。

選択肢	回答数
文部科学省ウェブサイト	27
メールでの案内	56
facebook groups Global+	2
知人からの紹介	11
その他	17
計	113



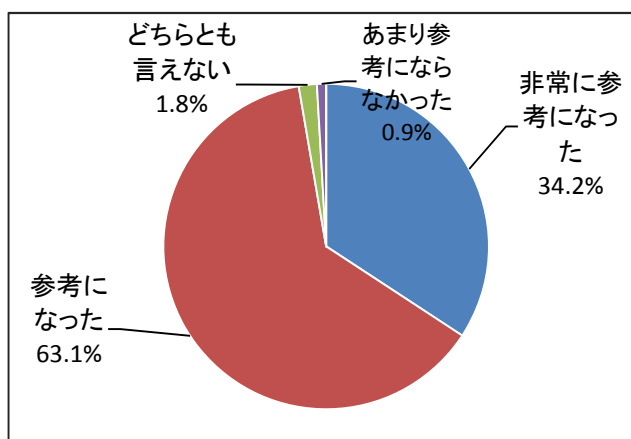
1-Q2.ご所属について教えてください。

選択肢	回答数
大学教員	24
大学職員	59
学生	2
その他教育機関	6
企業	15
官公庁関係	0
外国の機関	3
その他	5
計	114



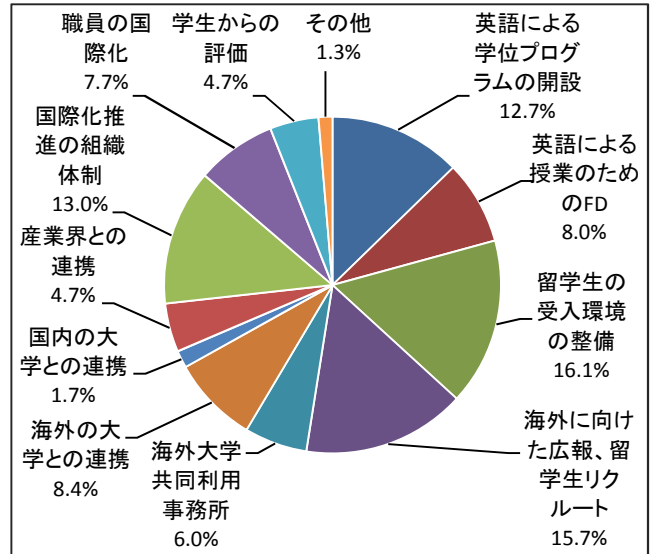
1-Q3.本日のシンポジウムは参考になりましたか。

選択肢	回答数
非常に参考になった	38
参考になった	70
どちらとも言えない	2
あまり参考にならなかった	1
全く参考にならなかった	0
計	111



1-Q4.本日のシンポジウムで、最も参考になった取組は次のどれですか。(複数回答可)

選択肢	回答数
英語による学位プログラムの開設	38
英語による授業のためのFD	24
留学生の受入環境の整備	48
海外に向けた広報、留学生リクルート	47
海外大学共同利用事務所	18
海外の大学との連携	25
国内の大学との連携	5
産業界との連携	14
国際化推進の組織体制	39
職員の国際化	23
学生からの評価	14
その他	4
計	299



1-Q5.ご自身の所属する大学の国際化にとって、最も参考になると思われた大学の取組について(主なもの)

- ・他大学の特に中間評価で高い評価を受けた大学が、どのような取組を実際にしたのかが分かり有益であった。
- ・日本へ留学生を呼び込むための、国際広報の重要性について再認識させられた。
- ・日本人学生の派遣に向けて、語学教育を大胆に実施している点。
- ・東北大学の留学プログラムの充実と派遣促進が参考になった。
- ・名古屋大学…高校(21ヶ国)でのリクルート活動、筑波大学…多言語対応事務職員の配置、立命館大学…国際化が非常に進んでいて全体的に参考になった。
- ・九州大学の学士課程国際コース生に対する支援、留学生と日本人学生で構成する「国際化学生委員会」。
- ・京都大学の英語コースの設置、拡充を全学的な教養教育の実施のための組織改革へつなげている点。
- ・慶應義塾大学(高校生・高校教員へのセミナー)、明治大学(一方通行型協定)、大阪大学(教育の質保証ハンドブック)、同志社大学(ILAと各学部との関係)。
- ・早稲田大学の外国人学生・研究者の支援体制が具体的で非常に参考になった。他に、東京大学のWeb出願システムが参考になった。
- ・大学の取組は分かるが、目的やそのための具体案をもっと明確に各大学からプレゼンして欲しいと思いました。
- ・G30のセカンドステージにおける施策継続に係るガバナンス・経営のコンセンサス。
- ・FDだけでなく、SDの重要性。
- ・外国人教員採用に当たっての柔軟な採用体制、規程整備。学長によるG30コースの維持・拡充に関する声明。初年度入学金・(初年度)授業料の不徴収制。
- ・各大学の学士課程の英語コースのための入学者の開拓についての取組が特に参考になりました。また、海外の共通拠点には是非参画させていただきたいです。
- ・グローバル人材育成推進事業にも採択された大学の日本人を送り出す取組が参考になった。海外の大学と共同して事務所を設置したり、教育を行う取組は本学ではなかなか進まないために刺激になった。
- ・個々の大学での推進の苦労話、現状など、本学の取組と比較しつつ何うことで整理ができ、今後に役立てたいと思えることが多々あった。1大学でなく、全大学参考になった。
- ・国際教職員の継続雇用を強化。
- ・所属する大学では海外拠点の取組が弱いという認識がある。他大と共同利用拠点が設けられれば大きなメリットがあると感じ、大いに参考になった。
- ・英語プログラムのレベル、教科書、教員のqualification、授業システム(講義かinteractiveか、等)の説明があるともっと良かった。
- ・大学内の調整をどこがどう担うのか。会議体とともにそれを支える事務体制について、どの大学も悩ましい課題を抱えていることが、各大学の取組全てに共通して見てとれた。

## 2.その他ご意見・ご感想等(主なもの)

- ・G30大学(13)は他の大学のことをもっと考えてもらいたい。エンジン大学への期待です。
- ・発表が並行だったので、半分の大学を傍聴することができなかったことが残念だった。
- ・各プログラム委員、評価委員のコメントは多角的な視点からの指摘があり良かった。
- ・委員からの指摘の内、特に共感した事柄…日本語教育支援の重要性、英語コースにおけるディプロマ・ポリシーを明示することが必要、留学生政策と文化政策、言語政策等、政策の連動を図ることを考慮。
- ・各大学、受入留学生数の増など、G30関連で明示していた目標設定数以外でも様々な学内外における波及効果について触れており、数値結果だけからは計れない内容等知ることができて良かった。いずれの大学もG30事業をきっかけにかなりの国際化推進をされている状況で、日本全体のグローバル化に多大な好影響を与えている本事業の継続性の重要性と責任を再認識した。
- ・他大学の取組内容、成果について知る良い機会であった。第二部のパネルディスカッションの時間をもう少し長く取っていただけるとなお良かったかと思えます。(それ程良い内容でした。)
- ・委員にも、海外の大学・高校の有識者を入れるべきではないでしょうか。ニーズを知る上で、最も大切なことだと思います。
- ・国の補助金が適切に使われ、各大学で活発に展開されていることが良く分かりました。発表内容の水平展開により、更に活性化を期待しています。(企業参加者より)
- ・「大学」の枠組の中だけで完結させることには限界があることを各大学が認め、大学間、大学・企業間など、あらゆる連携の可能性について大学を開いていく必要があるのではないか。
- ・G30+4年後、+2年後・・・などで同様のシンポをしていただきたい。(後発組の参考となるため)
- ・パネルディスカッションに登壇される方が多過ぎるのでは?社会に対しての説明を主旨とするのであれば、会場との対話をもっとすべき。
- ・もう少し本質的な課題や、国際化する上で苦労したこと、どのようにそれを乗り越えたのか、そういうところを詳しく聞きたかった。内容がほぼプレス発表やニュース記事etc.で知っている内容が多かった。
- ・第二部の冒頭発言であったように、2014年度以降どうするのか。海外大学共同利用事務所は日本のナショナルフラッグとして各国に事務所を出している。G30補助が終了したので撤退するのでは国の威信に関わる。一定の補助、支援の継続を求めたい。
- ・他大学の国際化への積極的な取組を聞くことができて刺激になった。本日委員から出た論点のいくつかはG30を継続していく上でもう少し深く検討していくべき点だと感じた。(シンポジウム形式ではなくても良いかも。)せっかく副学長クラスと委員が一堂に会した貴重な会なので、もう少し副学長のお話が聞ける時間が長い方が良かったと思う。
- ・優秀な個々の学生への経済的支援枠を増して欲しいと思います。G30の13大学以外の大学でもグローバル人材の予備軍は多数いますが、採択された大学のみ国際交流が限定される可能性があります。
- ・実際にG30を進めて感ずることは、学部教育に関しては、日本人学生が必死に勉学する環境を作っていないことで日本の大学のreputationが低いことでないかと思う。
- ・本事業継続の有無に関わらず、13大学以外の大学の意識改革に向けた施策を講じるべきだと思います。多くの大学では職員個人が一般論としてグローバル化の必要性を感じているが、学内のコンセンサスが取れていないため具体的な取組に繋がっていません。
- ・国際化の取組、グッドプラクティスは参考になったが、学生のほとんどを占める日本人に対する教育(日本の大学にとって最も大きい使命)を進める中でのグローバル化教育の位置付けの観点からの話が聞ければ良かった。
- ・看護系の単科大学の教員ですが、本学は来年度より海外の大学との連携を考えています。地方の小大学としては、国際交流プログラムを持っている大学の協力を得ることが、国際化につながると感じました。
- ・委員からの指摘で日本語教育に関わる部分がありました。その後の議論でも英語化を図る中での「日本語」をどう考えていくか、関心を持って考えていく必要を感じました。
- ・海外の認証機関による国際プログラムの評価方法についてもっと知りたい。
- ・H26年以降の財政的支援、ブランドの成熟化に国のイニシアチブを期待したいと思います。
- ・今後G30の学生が本格的に就職について考えていかなければならない時期に入ってくる。各大学のキャリア形成支援(必ずしも就職支援とは限らない。)について詳しく聞き、各大学との意見交換をしたい。また、各大学の詳しい取組について把握でき、とても良い機会だった。将来、再度このような機会を作っていただきたい。